

【催事報告】 血液浄化 WG

透析室トラブルシューティング共有会

第1演題



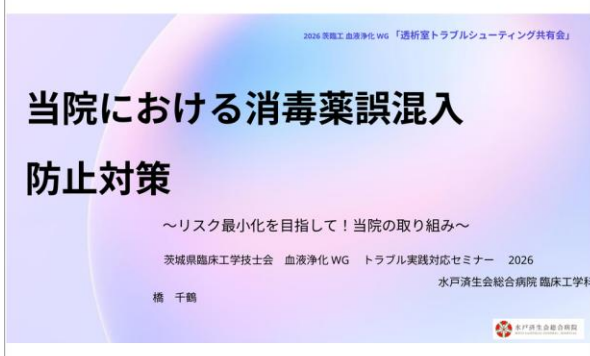
第2演題

透析室トラブルシューティング共有会 シャントトラブル

理学所見から読み解くシャントトラブル

山崎琢也（社会医療法人若竹会つくばセントラル病院 臨床工学部）

第3演題



第4演題



第5演題



開催概要

2026年7月23日（木）

Zoomオンライン開催

参加登録 52名

5演題・パネルディスカッション

2026年7月23日に、茨城県臨床工学技士会 血液浄化ワーキングによる「透析室トラブルシューティング共有会」を、Zoomによるオンライン形式で開催しました。

本共有会には52名の参加登録があり、多くの方に関心を寄せていただきました。

本共有会では、次の5演題が発表されました。

1. 「こんな時、どう考える？ — RO 装置トラブル対応 —」 千葉西総合病院 上ノ町 力

2. 「シャントトラブルー理学所見から読み解くシャントトラブルー」 つくばセントラル病院 山崎 琢也
3. 「当院における消毒薬誤混入防止対策ーリスク最小化を目指して！当院の取り組みー」 水戸済生会総合病院 高橋 千鶴
4. 「急なトラブル、透析システムが参照できない！？どうしよう…ーペーパーレス環境におけるシステム障害とこれからの対策ー」 土浦協同病院 佐賀 晋
5. 「原点回帰、患者緊急時対応ーエアー混入・ショック時対応の再確認ー」 岩本クリニック 深谷 昇太郎

各演題では、各施設で実際に経験したトラブルや、原因の考え方、初期対応、再発防止策、平時からの備えなど、日常の透析業務に直結する具体的な内容が共有されました。各演題の発表および質疑応答は大きな問題なく進行し、予定していた5演題をすべて終了することができました。

5演題終了後のパネルディスカッションでは、トラブル発生時の初動、対応の属人化を防ぐための教育やマニュアル整備、施設間で共有すべき課題などについて意見交換を行いました。

事後アンケートでは、内容の理解しやすさや日常業務への活用などについて、おおむね良好な評価をいただきました。寄せられたご意見は、今後の会の運営や催事企画の参考として活用してまいります。

本共有会を通じて、透析室で起こり得るさまざまなトラブルについて、施設ごとの経験や対策を共有し、日頃から備えることの重要性を改めて認識する機会となりました。

ご参加いただいた皆様、発表者の皆様、そして開催にご協力いただいた関係各位に心より御礼申し上げます。

今後も、臨床現場で役立つ学びと情報共有の場を継続して企画してまいりますので、血液浄化ワーキングの催事をよろしく願いいたします。